**ＥＳＤＧｓ通信　「特別支援教育とＳＤＧｓ、前川喜平さんとの対話(6)『特別支援学校**

**大学　学校看護師』」**　20210423　手島利夫

皆様、いつもお世話になっております。25日からは第三回目の緊急事態宣言下に入るこ

とになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。それ以外に打つ手をもたない現状には、国

民の一人としても情けなさを感じるこの頃です。

前回、「特別支援教育とＳＤＧｓ」について情報のご提供をお願いしましたところ、様々

な方から、貴重なお知らせを次々にいただきましたこと、ありがとうございました。具体的

な資料や学校名を、あるいはそれらの紹介者のお名前をこの通信の中でどこまで公開するか

という問題もありますので、まず感謝の気持ちを込めて、お寄せいただいた項目をお伝えい

たします。

・ＥＳＤティーチャープログラムから生まれた優れた指導計画・指導案、

・素敵な実践を重ねている各地の学校や、研究発表等のご紹介、

・資料のパンフレットデータやそれらが掲載されている元のアドレス

・その話題について話の出来そうな人物のご紹介

・製薬会社の方からは自社で進めているコミュニケーションバリアフリープロジェクト等

の情報、

・ハンディのある子どもたちへの教員の愛情と苦労が描かれた感動的な書籍のご紹介、

・５０年前のご自身の中学生時代の「ろう学校との女子バレーボール部練習試合」の記憶と、

そこから得られているものについて

・２０１９年版発達障害白書内の「特別支援学校における持続可能な開発のための教育」と

　その前提となった①～⑤への具体的な考え方や実践例について

・障害の捉え方についてのいくつかの話題（これらは間々田和彦様からいただいたお話です

が、内容をご紹介します。）

　〇特別支援教育において重要なのは「多様性を教えること」だと思います。

障害のある子どもたちは，先天的であれ後天的であれ、ある一定の割合で出現しま

す。前者は遺伝の現れとして，後者は社会活動の表れの一つとして、私はヒトの多様

性の一つの表れだと捉えています。

教え子たちへは、集団としてのヒトにとって，障害のある子どもが出現するのは多様

性の表れの一つである」と教えておりました。また、私は非常勤で特別支援教育を教

えることがあるのですが、「社会全体で障害のある子どもたちへ多くの予算を使って

ケアをしなければならないのは、ヒトの多様性を保証しなければ，ヒトは存続し続け

ることができないからだ」と教えています。予算については、特別支援教育の児童生

徒一人あたりの経費は普通小学校の１０倍以上ですから。

〇「障害を持った」という表現は、この頃使わなくなりました。理由は、持つ・持たな

　いは、選択するときの表現であるからです。障害を持ちたくて持っているんじゃな

い！　との主張があったと聞きました。ですから、「障害のある子どもたち」の方が

良いのではないかと思います。あるかないかでいえば、あるのは間違いありませんか

ら。

　〇ちなみに、視覚障害の子どもたちへ「見える」と言うのには抵抗は無いようです。た

　　だし、「見える」ではなく、「みえる」として、「把握する」意味で使います。

　〇「連続性」という視点についてお伝えします。私が以前、聴覚特別支援学校の先生と話

をしたときのこと。彼は「私は全聾の子どもに会ったことが無い」と言いました。

「えっ」と答えた私に彼は「だって太鼓の音が鳴っていると体で感じるでしょ」とのこ

と。耳で聞くことだけが聴覚と思っていた私にはすごい衝撃でした。   
これは鼓膜だけを使って把握していないことなんですね。   
そうなると、視覚でも同じことがありました。眼球が潰れていることを眼球癆 (がんき

ゅうろう) と言うのですが、眼球癆 の学生が「先生、太陽の方をみると、目のあたりが

しょぼしょぼするんだよね」と言ったことです。私たちが見ている可視光線は電磁波の

ごく一部です。熱は赤外線と言いますが、これも電磁波の可視光線よりも波長が長いも

のです。彼は赤外線で太陽を感じていたと思います。   
何を言いたいかと言いますと、すべてが「連続している」ことを子どもたちへ伝える必

要があると言うことです。   
日本の高校３年生男子の平均身長は１７０cmと言われています。身長が１７５cmを超

えると「背が高い」と感じますし、１６５ｃｍより低いと「背が低い」と感じます。結

局、背が高い低いは、正規分布の中央部から判断しただけなんです。ギネスブックにあ

る世界で一番背が低い人と高い人の間は「連続して」いるんです。   
障害者と言っても様々です。しかしながら、すべてはこの正規分布からどのくらい離れ

ているかに過ぎないと思います。   
これは多様性を考えるときも基本になる気がします。多様性と言っても別のものでは無

く、すべてが連続しているからです。

・続いて、鈴木敏恵様からいただいた情報、前川喜平さんとの対話(6)も『特別支援学校

大学 学校看護師』ということで、特別支援教育における課題や、求められる考え方等が語られております。

<https://youtu.be/lm7BmgtXzFc>　　　←　こちらからどうぞ。

「どんな子も学び続けられるように」、「 能力はあるかないかではなくて‥どういう能

力かということが重要」など、私にとってもタイムリーな内容のお話でした。

　今回、「特別支援教育におけるＳＤＧｓ」について私にご質問くださった先生からは、

「お寄せいただいたメールを読んでとても感動いたしました。大事なご指摘をいただき、本

当に良かったです。目からウロコが落ちたようです。今度の研修会でも、また社会教育主

事としての事業でも、この学びを活かしてまいります。」とのことでした。

「ＥＳＤ・ＳＤＧｓ推進研究室」　手島利夫

URL=https://www.esd-tejima.com/

　　 　　　　　　　　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

　　　　　　　　　　　　　　☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

　　　 　　Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com

C:\Users\conta\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\Content.MSO\E74122E4.tmp